

生物多様性を脅かす問題

生物多様性ってなんだろう？

今、地球上には、500 ～ 3,000 万種もの生き物が存在すると言われています。日本だけでも、30 万種を超える生き物がいるとされています。これらの生き物たちは、森や川、草原、湿地、海などさまざまな場所で、お互いにバランスを保って生きています。

たくさんの種類の生き物すべてが、複雑に関わりあって存在していることを生物多様性と呼んでいます。

生物多様性の危機

そのようなたくさんの生き物が今、絶滅の危機にさらされています。日本では、3,597 種もの生き物が絶滅の危機にあるとされています。最近あらたに絶滅種や絶滅危惧種※に選ばれた生き物を紹介します。

※絶滅危惧種：絶滅の危機にある生き物のことです。

ニホンカワウソ：絶滅種

かつては全国の川や湿地に住んでいたイタチのなかまです。水質の悪化やすみかの開発、毛皮目的の捕獲などが原因で数が減ってしまい、現在では絶滅したと判断されました。



写真：愛媛県立とべ動物園

ニホンウナギ：絶滅危惧種

わたしたちの食卓にもものぼるニホンウナギは、国内での漁獲量が減少しており、生息数も減少していると考えられたことから、絶滅危惧種に選定されました。



写真：九州大学 脇谷量子郎

生物多様性からのめぐみ

わたしたちは生物多様性がもたらす自然のめぐみから、生活に欠かせない食べ物やエネルギー、衣服の原料などを受け取っています。



資料：環境省

昔はぼくたち人間の身近にいた生き物たちも、絶滅の危機にさらされているんだ。どうしてなんだろう。



生物多様性を脅かす4つの原因

生き物たちはなぜ絶滅の危機にさらされているのでしょうか。主な原因4つを紹介します。



多くの原因が人間によるものなんだぞ！

第1の原因（開発などの人間活動）

わたしたち人間が使う道路や工場、住宅を作るために、生き物のすみかである森林、湿地や干潟などの自然が破壊されています。

森林伐採



写真：国際環境 NGO FoE Japan

第2の原因（人間の管理不足）

里地里山※の手入れが不十分で、そこをすみかとしている生き物が減っています。一方で、狩猟をする人が減ったことや利用されなくなった農地が増えたことなどが原因で二ホンジカなどが増え、自然に悪影響を与えています。※里地里山：雑木林、農地、ため池、草原などで構成され、人間が手を入れることで保たれてきた地域のことです。

里地里山の風景

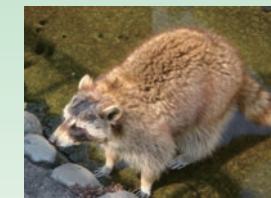


写真：小城市

第3の原因（人間が持ち込んだもの：外来種や化学物質）

別の地域から人間によって持ちこまれた生き物（外来種）が、もともとその地域にいた生き物（在来種）を食べたり、追いやったりしています。また、農薬や殺虫剤などの化学物質が生き物に影響を与えています。

アライグマ



写真：環境省

第4の原因（地球環境の変化）

地球温暖化などの地球環境の変化により、寒い地域にしか住めない生き物が危機にさらされています。また、海が酸性化してサンゴの骨格が溶けるなどの悪影響が予想されています。

白化したサンゴ礁



写真：環境省

生物多様性を守るための取組

生物多様性を守るため、さまざまな取組が行われています。

ワタシたちを守ってくれてるんだね。アリがとう。



絶滅危惧種の保護や増殖

絶滅しそうな生き物を守り、その数を増やすための計画を作って、えさ場やすみかとなる環境を整えたり、動物園や植物園で数を増やしたりしています。

ライチョウの保護

本州中部地域の高山帯にだけ生息するライチョウの数が減っています。原因として、カラス・キツネなどの天敵の増加などが考えられています。



写真：環境省

平成24年度にライチョウを守るための計画を作り、対策を進めることにしています。

増えすぎた動物への対策

科学的なデータを参考にして増えすぎた生き物を適正な数になるように捕獲するなどの対策をとっています。

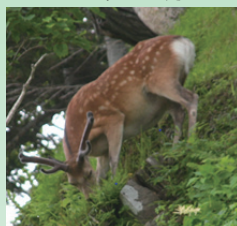
ニホンジカの捕獲など

ニホンジカは全国的に数が増え、木や草などの植物を食べ尽くしてしまうなど、生物多様性に悪影響を与えています。そのため、猟銃やわななどで捕獲して適正な数に減らしたり、ニホンジカに食べられて絶滅しそうな植物を柵で囲って保護したりしています。

ボクたちもたくさん食べられてしまうんだ。



ニホンジカ



写真：環境省

猟銃による捕獲



写真：北海道立総合研究機構
環境科学研究センター

外来種の防除

在来種を守るため、外来種を駆除しています。また、法律で決めた外来種については、飼育・栽培、輸入、自然に逃がすことなどを規制しています。違反すると、罰金が科されます。

ブラックバスの防除

ブラックバスは、北アメリカ原産の外来種です。全国の川や池に放流されて、たくさん生息しています。その旺盛な食欲から、水中に住む多くの在来種が犠牲になっています。そのため、池の水を抜いたり（池干し）、網や釣り竿を使って捕獲するなどして駆除を進めています。

ブラックバス



写真：環境省

池干しの様子



写真：全国ブラックバス防除
市民ネットワーク

自然保護地域の指定

生き物のすみかとして重要な自然を、法律によって「自然保護地域」として定めることで、生物多様性を守っています。自然保護地域では、建物を建てたり、木を伐るなどの開発行為が規制されます。

慶良間諸島の国立公園指定

沖縄県の慶良間諸島は、クジラが子供を産み育てる海域があるほか、さまざまなサンゴや熱帯魚が見られます。

慶良間諸島の生物多様性を守るため、自然保護地域の1つである「国立公園」に指定することが計画されています。

慶良間諸島の海



写真：環境省

慶良間諸島のサンゴと熱帯魚



写真：環境省

もっと調べてみよう！

生物多様性を守り、そのめぐみを受け継ぐためにわたしたちができることを紹介しています。

「MY行動宣言」[http:// undb.jp/action/spread-action/](http://undb.jp/action/spread-action/)